

Computer Report

4

2018 No.763

3 はじめの言葉

4 情報社会における

情報処理力の差異

田原文夫

何事にも、買手側、売手側のそれぞれの言い分がある。情報処理の世界のそれに注目して振り返ってみると、かなり売手側有利に推移してきている感がある。早い話、ユーザー側がセールストークに乗せられて来ているということである。売手側すなわち情報発信側の情報処理に、買手側すなわちユーザー側の情報処理が敗北してきているということである。たとえば「クラウドサービスでは必要な時に必要なだけ使って対価を払う。ユーザーは無駄な費用を削減できる」には、かなりの矛盾がある。基本はシステムリソースのシェア／共同利用だが、情報社会において最も価値のある情報をユーザーは一方向的に売手側に捧げる立場に陥っている。情報処理力の差である。

10 情報社会を考える その91

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

独裁統治体制が恐れるもの

先ごろの佐川前国税庁長官（元財務省理財局長）への証人喚問ほど国民をバカにした話はない。「刑事訴追を受ける可能性がありますので、証言を控えさせていただきます」と、要するに証言拒否をすること 55 回だった。日本国家および国民に奉仕することを旨とする官僚として奉職し、俸禄を食んできた身として、自分の身に及んだ疑惑疑念を払拭することを目的とすべき国会喚問だった。それだけに、どういう姿勢／心構えで国会での証言に臨むかが注目された。

12 デジタルガバメント DG 3

デジタル政府の展開 その3

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018 年 1 月 16 日に日本政府もデジタルガバメント実行計画を e ガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28 年 1 月 16 日から 2023 年 3 月 31 日までの計画である。2018 年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府は ICT を使って、政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりがやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

20 連載 アーキテクチャ論 (84)

EA フレームワークの比較

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

エンタープライズアーキテクチャ（Enterprise Architecture、EA）といえば、我が国では、Zachman フレームワークのことだといまだに思い込んでいる人が多いことに驚いた。特に、ArchiMate が EA モデリング言語だということで、ArchiMate が Zachman フレームワークのために開発されたと誤解している人までいるらしい。ArchiMate で、Zachman フレームワークの要素文書を表現できるのはもちろんだが、ArchiMate では Zachman フレームワークにはないような現代 EA が必要とする EA モデルを表現できる。本稿の目的は、EA フレームワークを比較して、EA の正しい姿を説明することである。本稿では、まず EA フレームワークの歴史的な発展を年代順に概観する。次いで各年代を代表する EA フレームワークとして、Zachman フレームワーク EAPM（Enterprise Architecture Planning Method）、EAAS（Enterprise Architecture As Strategy）、TOGAF（The Open Group Architecture Framework）を取り上げて説明する。

3 2 連載 情報システム考

企業情報システムの変遷と行方 第7回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

3 9 IT新時代とパラダイム・シフト

第101回 最貧国や新興国を飛躍発展させる

「蛙跳び現象」と日本の課題

根本忠明

最近「蛙跳び現象」が注目されている。これまでの「ペティ＝クラークの法則」による産業発展モデルでは説明できない、最貧国や新興国が先進国に先行したり、異なる形での技術革新の採用により発展する現象をさす。この現象の多くは事例中心で理論的なものではないが、最貧国や新興国での注目事例と日本の対応すべき課題も含め紹介したい。

4 2 続インテリジェンスへのいざない 99

国会喚問の茶番劇

それでも学べる知的創造力

今井 武

歴史的茶番劇に終わった佐川前国税庁長官にたいする国会証人喚問。自民党議員の出来レース質問には、腹立ちを超えて、笑うしかなかった。何を考え、誰に指示され、何のための質問だったかを喚問したい。国会を劇場に、国民をバカにしたやり取りは、やがては政治不信に帰結するだろう。独裁政治体制を固めつつある中国、ロシア、北朝鮮を笑えない。

お知らせ 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

すぎやま先生の体調不良のため、本号は休載とさせていただきます。

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,800円＋税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 EHCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門からできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの関係と最適化	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正則化の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEHCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 CodeベースによるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 381頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動とヒュークス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動とヒュークス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マテリアル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM KLEZの蔓延と国家記録
第二章 aism情報セキュリティ研究会の発足	第十二章 メールが騙かQ1
第三章 認知される電子署名方式の基本論	第十三章 任意ネットワーク利用のための認証サーバーの構築
第四章 署名を拒却したCodeRedワーム	第十四章 第五のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 1万バグの常識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WWW(バーチャル・リアリティ)ネットワーク	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業活動	第十八章 ネット・セキュリティ作戦にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の脅威と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム監査	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)
A4版 212頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 分散式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)
A5版 280頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広域ビジネスの経営条件	■ 楽なことも企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも決めるも広報が窓口
■ 文字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のタイミング	＜付＞記事とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー
—IBM社会に挑んだ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)
A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本銀行法の思い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米国チーム編組の軌跡
第三章 新しシステムへの働き	第十三章 新たな陣営
第四章 W3Cに向けて	第十四章 本邦チーム編組と新たな役割
第五章 F4C, IBM競争	第十五章 国際チーム編組とリンクアップ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本銀行法と本業業務日程
第八章 本邦チーム立ち上げの証	第十八章 既存システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 探訪その一 直前、直前の苦しみ
第十章 米国チーム、勝たぬ三人数	第二十章 探訪その二 安定稼働と北米センター稼働

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp